

VOL. 135

ウクライナ：人道支援  
イエメン：農業復旧支援  
世界のADRAから

世界がわかる。ADRAがわかる。

# ADRA

EST.1985

# News

2023  
3



※今号のADRA Newsは公益財団  
法人ウエスレー財団様の助成を  
受けて発行しております。

## 再び花咲く未来を信じて ウクライナ人道支援開始から1年



特に支援を必要としている方々を優先に、宿泊施設を提供。  
施設では、子どもたちも元気に安心して過ごすことができ  
おり笑顔が見られる(ウクライナ、キーウ州ブチャにて)。

# ADRA Japan 事業マップ

ADRA Japanは、約120の国と地域に支部を持つ世界最大規模の国際NGOであるADRAの日本支部です。人種・宗教・政治の区別なく支援活動を行うことをモットーに、海外および日本国内の各地にて様々な活動を行っています。



## UKRAINE ウクライナ

### 人道支援

→ p.4-5

## YEMEN イエメン

### 農業復旧支援

→ p.6

## ZIMBABWE ジンバブエ

### 教育環境改善支援

教育環境の改善に取り組んでいる地域の348世帯を調査した結果、学齢期の子ども200人が家の手伝いなどの理由で学校に通っていませんでした。そこで学校の子どもたちと劇などを用いて地域の人々に教育の重要性を訴えるキャンペーンをしたところ、学校に子どもを通わせたいと考える家庭が出てきました。学校に通っていなかった子どもを受け入れる特別学級の開講も進めていきます。



劇にて教育の重要性を訴える子どもたち

## AFGHANISTAN アフガニスタン

### 地震被災者支援・食料支援

以前から危機的な食料不足に陥っていたアフガニスタンでは、昨年6月に発生した地震によって、家畜の喪失や保管していた貴重な食料ががれきに埋もれてしまう被害があり、事態がさらに深刻化しました。ADRAは地震被害の特に大きかったバクティカ県ガヤン地区にて最も脆弱な被災世帯の方々に食料を配付し、彼らの生活を支え、命をつないでもらえるように活動しています。



主要食品である小麦粉、植物油、豆類、塩を配付

## NEPAL ネパール

### 教育支援〈ナマステ基金〉

ネパールでは学校に通うことが困難な児童・生徒に対して、学資支援を届けています。毎年クリスマスの時期に、子どもたちから送られてくるグリーティングカードがこの冬も届きました。色とりどりの絵とともに、得意な科目・好きなこと・将来の夢などが書かれています。これらのカードは、継続支援の sponsor登録をしてくださっている方々へお届けしました。ADRAでは現在 sponsorを募集しています。詳しい情報は事務局までお問合せください。



今冬届いたグリーティングカード



支援で受け取った新しいジャージで学校に通う子どもたち

## MYANMAR ミャンマー

### 国内避難民支援

ミャンマーでは不安定な情勢の中、各地で戦闘が続いています。危険から逃れるため、故郷を離れ、国内避難民としての生活を余儀なくされている方々に、命をつなぐ食料品と、感染症予防の蚊帳や風雨から身を守る大きな防水シートを配付しました。数日後の食料や住まいの見通しさえ立たない中、食事や体を休める場所に関する不安を少しでも取り除けるよう、引き続きご支援をお願いいたします。



米、塩、油など調理に一番必要な食料品を配付

## JAPAN 日本

### 防災・減災

毎年のように起こる災害は防げなくても、備えておくことで被害を最小限に抑えることはできます。ADRAでは自治体や企業、学校などから依頼を受け、それぞれの要望・状況に応じた防災のお話やワークショップを提供しています。10月には調理実演も含めた菜食で備える防災食講座を開催しました。防災力・減災力を高めたい方のご相談をお待ちしております。



SDA福岡教会での、菜食を取り入れた防災(菜)食講座

## ETHIOPIA エチオピア

### ガンベラ州のクレ難民キャンプにおける衛生支援

### アムハラ州北ウォロ県 紛争危機対応水衛生支援

エチオピア西部ガンベラ州にある難民キャンプでの南スーダン難民支援活動に加え、北部のアムハラ州にて紛争からの復興支援が始まりました。ガンベラ州では難民によるトイレ建設の技術を強化する研修と衛生啓発活動を、アムハラ州では紛争によって破壊された水衛生インフラの修繕などを実施しています。家を追われた方々が少しでも安心した暮らしをすることができるよう、引き続き寄り添った支援を続けていきます。



ガンベラ州で衛生啓発活動に参加する難民の方々

● ADRA Japan 実施事業  
■ 世界のADRA支部がある国と地域

ご紹介している事業は皆さまからのご寄付のほか、以下の機関・団体から助成や支援を受けて実施しています(以下敬称略)。  
● 日本NGO連携無償資金協力(ジンバブエ)  
● 特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォーム(アフガニスタン、イエメン、ウクライナ、エチオピア、ミャンマー)

● ADRA International (世界本部)

# ADRA JAPANの活動

## UKRAINE ウクライナ

### 再び花咲く未来を信じて ウクライナ人道支援 開始から1年

ウクライナ全土におよぶ戦争が始まって1年が経ちました。ADRAは皆さまからの温かいご支援のもと、危険な地域からの避難や衣食住を支える支援、病院への医療資材の支援など、人々が置かれている状況に合わせて活動しています。今回の特集では、日本の子どもたちの思いが届いた子どもから子どもへの支援「チルドレン・チルドレン」と、厳しい冬を越えるための越冬支援についてお伝えします。



食材や日用品が入っている支援物資を受け取る家族(チェルカスイ州コールスニ=シェウチェーンキウシクィにて)

### 子どもから子どもへ届いた笑顔

ウクライナ南西部ヴォロフタに、約150人の子どもたちが暮らす児童養護施設があります。約3分の2は今回の戦争の影響を受けた子どもたちです。戦争で日常が奪われ、子どもを育てることが難しくなってしまった家庭の子どもたち

もいます。この施設の子どもたちに、日本の子どもたちがお年玉を使って支援に参加してくれた「チルドレン・チルドレン」によるお菓子のギフトを届けることができました。ギフトボックスには日本のお友達から寄せられた手描きの絵も添えられており、嬉しそうにギフトを握りしめる子どもたちの姿がとても印象的でした。

このキャンペーンに参加した思いを、ひとりの小学生が学校の日記に書いてくれました。許可を得て一部ご紹介いたします。

「戦争が始まってから、もうす

ぐ1年がたつ。そんな長い間、きょうふや悲しみの中、戦場にいってずっとかくれているのは、とてもこわいと思う。わたしと同じくらいの年の子もいるはずだ。だからそんなウクライナにいる子どもたちに、お年玉をあげようと思った。母にやってもいいか聞いてみると、「いいよ。ウクライナにいる子どもたちも喜んでくれると思うよ。私も参加するね」とってくれた。わたしの思いがとどいて、ギフトを受け取った子が幸せになれるといいなと思った」(私立横浜三育小学校4年生)



左/嬉しそうにギフトボックスを抱きしめる女の子 右/お菓子箱の中身と日本から寄せられた手描きの絵



## 寒さをしのぐ越冬支援

戦争の影響により、温かい家や電気、燃料がない中で寒さをしのげなければならない事態に直面している人々に、寄り添う支援を届けています。

### 暖かい家を取り戻す 住宅修繕費支援

戦闘によって家が破壊されながらも、冬の間もそこに住まざるを得ないウクライナの方々を支援するため、キーウのほか、ドニプロペトロフスク、ドネツク、ハルキウ州において、住宅の修繕に必要な費用を支援しています。窓や屋根、玄関、室内ドアなどを直し、少しでも暖かく過ごしてもらえるように、子どもがいる家庭、障がい者、年金受給者など、特に支援が必要な方々を優先に支援を届けています。



住宅修繕は損害状況を確認後、被害に応じて支援を実施

### 命をつなぐ 暖房ステーション

激しい砲撃が続く東部ドニプロペトロウシク州では、例年ならば各建物のセントラルヒーティングが動いていて、暖かく過ごせるようになっています。しかし、そのシステムも破壊されてしまった今回の冬は、寒さによる命の危険も心配されました。そこで、人々が

集まる場所に高出力の薪ストーブを支援し、暖房ステーションを3か所、設置することができました。寒さによる体調不良や命の危険を避けられる支援に喜びの声が届いています。



ドネツク州の診療所にも薪ストーブを配付

### 帽子や手袋 暖かい衣類パッケージ

防寒具が不足しているという声を受けて、帽子やネックウォーマー、靴下、手袋、ブランケット、暖かい下着の上下などが含まれる「越冬支援パッケージ」を5,280箱準備しました。電気不足が続く中でも、必要性が高まっているろうそくもパッケージに入れてあります。



電力不足の中、暖かい防寒具はとても感謝される

### 活動を支える電気の支援

不安定な情勢と電力不足が続く中、ウクライナ国内での活動にも影響が出ていました。そこで、電気が通っている間に多量の電気をためておける大型の充電器をADRA Ukraine (ウクライナ支部) に届けました。大型充電器を受け取った現地スタッフは心の底からこの支援を喜び、感謝を表しています。



充電器を受け取り、大きな喜びをあらわすスタッフ

### 食いつなぐための食料支援

飢えをしのぐための食料支援も続けています。12月、在スロバキア特命全権大使の中川氏がスロバキアにあるADRA倉庫で、食料の箱詰めに参加してくださいました。



2週間分の食料などを箱に詰め、手渡しで配付する

### 駐在員の声



昨年の12月から、ウクライナの隣国スロバキアに駐在している高橋です。先日、ADRAがスロバキアで運営しているウクライナ避難民支援センターを訪れたとき、平日の昼間なのにとっても混雑していたことに驚きました。「私たちにとって、ここはただ支援物資をもらいに来る場所ではないんです。みんな話をしたくてここに来ています。私たちのための場所があることが、心の支えなんです」と気持ちを話してくれたことも強く印象に残っています。1年という長い時間が経っても今なお続いている困難に寄り添い、必要なものを届け、心に寄り添う活動ができていますことを、皆さまに心より感謝申し上げます。

YEMEN イエメン



生きる力を取り戻し、再生へ

イエメンでは2015年3月末から内戦が続いています。この3月で丸8年。いまだ内戦終結の目処は立たず、国民の2人に1人は深刻な食料不足の状態...

ADRAは、1995年よりイエメンで活動しており、2015年以降は日本からも計6回、延べ35万人以上の方々に、小麦、米、豆、缶詰などの食料や、水、石鹸・シャンプー、歯ブラシ、生理用品などの衛生用品を届けています。

灌がいへの復旧に取り組んでいます。「農業こそが世界を救う」という信念のもと、自らも有機農業に身を投じてきた経験のあるイエメン事業担当の小出は、「イエメンはサウジアラビアのすぐ下にあり、オイルマネーのイメージが強いかもしれませんが、もともとは中東有数の農業国で、キビ、ソルガム、トウモロコシ、ゴマ、落花生、トマト、ニンジン、オクラなどの生産が盛んなところでした。」

この取り組みでは、まずは壊れてしまっている井戸を直し、畑に水を送るホースを設置します。ホースの先には、貴重な水を大切にしながら作物に水をやることのできる特別なチューブを取り付けます。

井戸を一つ修繕できると、そこから数世帯の畑に水をひくことができます。今回の取り組みでは、80世帯への支援から始めています。緑豊かな畑が戻り、育てた食物で人々の生活が支えられる春が来ることを目指して、今後も活動に取り組んでまいります。



井戸の調査をする現地スタッフと住民

アラビア半島の先にある中東の国イエメン



かつては「幸福のアラビア」と呼ばれる農業国だった。内戦により多くの人が行き場をなくしている

世界のADRAから

約120か国と地域に支部を持つADRAは、世界各地で活動しています。数ある活動の中から、一部をご紹介します。

SYRIA シリア



トルコ・シリア地震被災者支援 被災された方々に寄り添う支援を

トルコとシリアの国境近くで世界最大級の内陸型地震が発生し甚大な被害がでています。ADRAは即座にADRA Syria (シリア支部) から16名のチームを被災地域に派遣し、支援活動を実施するために必要な調査を行うとともに、水や食料、衛生用品などの配付を開始しています。

ア内戦によって被災された方々に寄り添った復興活動を続けてきました。これまでのつらい紛争の経験に加え、今回このような自然災害が起こってしまったことに強い衝撃はありますが、皆さまからの温かいご支援のもと、ADRAネットワーク全体で協力しながら、必要とされる支援を届けてまいります。



左/シリア国内アレppoの被災現場 右/シリア国内ラタキアにて食料や毛布などの必要物資を配付

JAPAN 日本



東日本大震災から12年

東日本大震災から12年。ADRAはこれまで、宮城県と福島県で緊急支援やコミュニティ支援などに取り組んできました。その中で、たくさんの悲しみや怒り、やるせなさや不安など、さまざまな住民の方々のお気持ちに触れましました。また、一緒に時間を過ごす中で、人とつながる喜び、悲しみ

から立ち上がる強さ、未来への希望も感じる事ができました。この度、東日本大震災から12年を迎えるにあたり、現在の宮城県山元町の様子や福島県飯舘村の様子をお伝えする特設ページを開設しました。QRもしくは下記URLよりご覧ください。

https://www.adrajpn.org/japan/earthquake/higashi\_nihon.html



ADRA Japanを 支えてくださる方をご紹介します!



中川 学さん 会社員 (海運業事務系)

—ADRA Japanを知ったきっかけ 東日本大震災の復興支援ボランティアに応募したのできっかけです。

—ADRA Japanとの関わりについて 食堂支援と仮設住宅設置のボランティアとして、2011年6月に宮城県山元町で一週間活動をしました。それ以来、ADRAニュースやメルマガを読み、オンライン報告会などの機会があると参加しています。

—ADRA Japanの魅力や関わっていてよかったことを教えてください

復興支援ボランティアに参加した際、ADRAスタッフの方々とは私と初対面にも関わらず、コミュニケーションの取り方が上手でした。また、他のボランティア仲間に対する気遣いやチームワークも素晴らしいものでした。ADRAスタッフの方々のさりげない気配りや工夫があってこそこの活動だったと感じています。ボランティア活動では微力ながらも人の役に立てるという実感をさせていただきました。食堂支援では掃除やお米研ぎを中心に参加しつつ、不得手だった料理にも挑戦して少し自信が付きました。また、仮設住宅設置支援では力仕事の家具搬入で力を発揮することができました。復興支援ボランティア活動では得難い経験をさせていただきました。今でも当時を思い出して前向きな気持ちになっています。

—まだADRAのことをご存じない方へのメッセージをお願いします

ADRAとの出会いは本当に偶然のものでした。これをご覧いただいている方も、活動報告会や一日のボランティアなど何かしらの形で直接関わると、普段会社の中では得られない経験ができます。まずは関わってみることをおすすめしたいです。

—ADRA Japanへのメッセージをお願いします

ボランティアに参加した当時は生まれたばかりだった娘も中学生になります。「アフガニスタンってどこ?」「ウクライナってどこ?」と聞かれると、地球儀で場所を示しながら、ADRAの活動を紹介しております。命を守る活動の最前線は本当に大変だと思います。どうか皆さまもお体に気をつけてがんばってください。

## 新着のお知らせ

# ファンドレイジング大賞に入賞しました！

この度ADRA Japanは、人々に感動と笑顔を与えるファンドレイジングを行った団体と評価され、日本ファンドレイジング協会が主催する第13回日本ファンドレイジング大賞で入賞をいただきました。いつもADRA Japanの「寄り添う支援」を応援くださる皆さまに感謝いたします。

## ホームページをリニューアルしました SNSでも発信しています

私たちADRAは、必要とされる支援を必要としている一人ひとりに届けるために、世界で起きていることや、私たちの取り組みについて、知っていただくことも必要な活動だと考えています。広報活動には、社会人ボランティア、学生ボランティア、翻訳ボランティア、発送作業ボランティアなど、本当にたくさんの方のお力をお借りしております。広報活動を支えてくださる皆さまに改めて心より御礼申し上げます。

この度、ADRAでは、ホームページをリニューアルいたしました。このホームページも歴代のボランティアの皆さまのお力によって支えられてまいりました。今後も、皆さまにお支えいただきながら、ホームページをはじめ、本誌ADRAニュースや毎月のメルマガ、SNSなどでわかりやすい情報発信を心掛けてまいります。



## 通常総会開催のお知らせ

以下の通り第19回ADRA Japan通常総会を開催いたします。

日時：2023年6月18日(日) 10時～12時

場所：SDA原宿クリスチャンセンター／オンライン

主な議題 ● 2022年度事業報告承認の件  
● 2022年度会計報告承認の件 など

※正会員の皆さまには日程が近づきましたら、詳細のご連絡をいたします。ご参加をお待ちしております。

## 応援メッセージ

講演で災害被災者支援現場のお話を聞く機会がありました。私自身が2019年の水害で実際に被災経験者だったので、私がしたくてもできないことをしてくれるADRAの活動に共感を持ちました。今はADRAフレンドを通して活動を応援しています。  
(箱岩 きよみさん / ADRAフレンド)

ADRA Japanは「人間としての尊厳の回復と維持」を実現するため、キリスト教精神を基盤として、人種・宗教・政治の区別なく世界各地で国際協力活動を行っています。

ADRA News 135号 2023年3月1日発行

発行人 青木 泰樹  
発行 特定非営利活動法人 ADRA Japan (アドラ・ジャパン)  
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前1-11-1  
TEL: 03-5410-0045 FAX: 03-5474-2042  
E-mail: support\_adra@adrajpn.org  
Facebook: adrajapan Twitter: ADRA\_Japan  
Instagram: adra\_japan

### 団体概要

法人名 特定非営利活動法人 ADRA Japan  
所在地 〒150-0001 東京都渋谷区神宮前1-11-1  
(JR原宿駅 徒歩5分、東京メトロ明治神宮前(原宿)駅 徒歩2分)  
代表者 柴田 俊生(理事長)  
事務局責任者 青木 泰樹(常務理事/事務局長)  
創設年月日 1985年3月30日

デザイン：細山田デザイン事務所

Justice,  
Compassion  
Love

